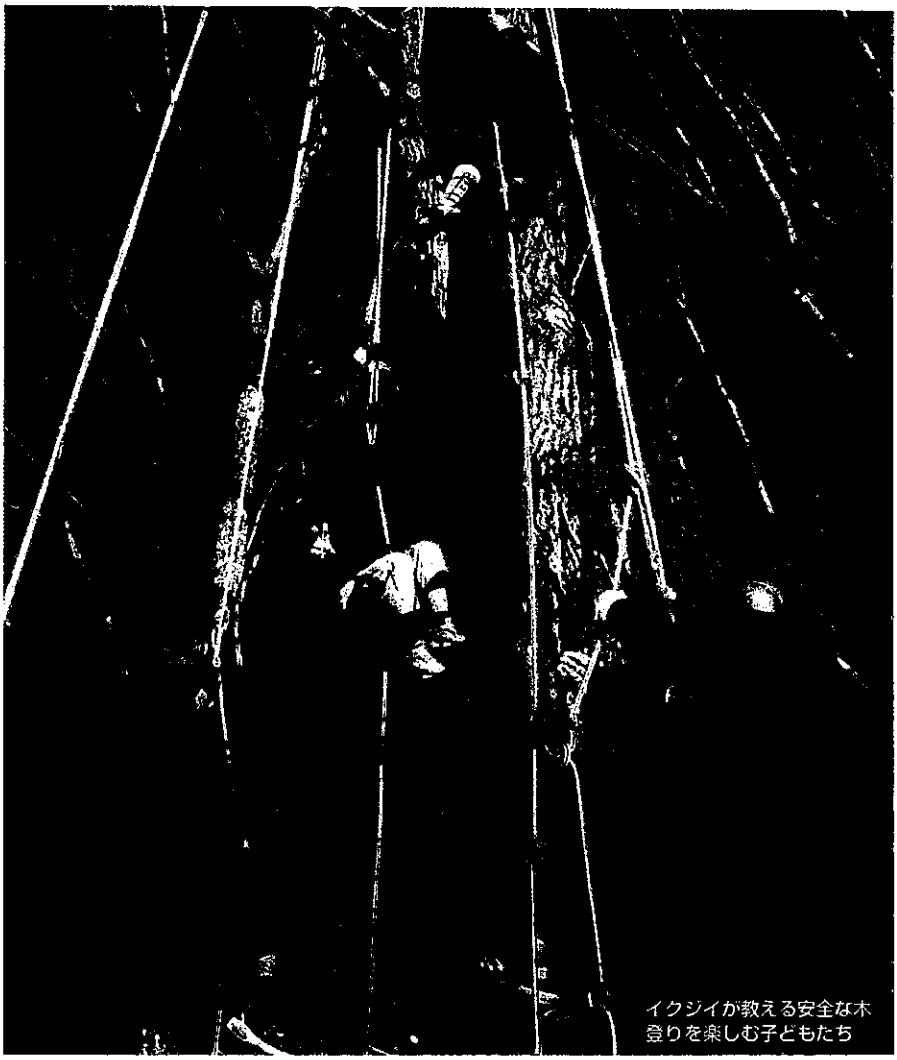
かっこいいおじいちゃんの秘密

「イクジイ」になって孫育てにかかわる

積み重ねてきた知識や技能、経験を活かして、「孫世代＝未来を担う人材」を育てることも、かっこいい老い方の一つではないでしょうか。そんな生き方を既に始めた二人の方に、日々の活動や孫世代とのかかわり方のコツなどをお聞きしました。



イクジイが教える安全な木登りを楽しむ子どもたち

写真提供：石田正邦

孫育てに参加したいがスキルがない!?

孫育てに参加したいと思っている六十代以上の男性は八二％。しかし、六十代以上の男性でわが子の育児に関与した人は五〇％。

これは、男女共同参画社会の形成促進を目的とするＮＰＯ法人エガリテ大手前が、二〇〇六年に行なったアンケート調査の結果です。このデータからは、「若い頃は仕事一筋で子育ては妻に任せきりだったけれど、リタイア後は孫育てをしてみたい」と考えている男性の多いことが、見て取れるのではないでしょうか。

さらに、一般的な家事ができるかという問いに、「できる」と答えた六十代以上の男性は五〇％。孫育てはしたいけれど、子育ての実績や家事のスキルが伴わないために二の足を踏んでいる、というのが実態かもしれません。

自分の知恵や経験を未来のために役立てる

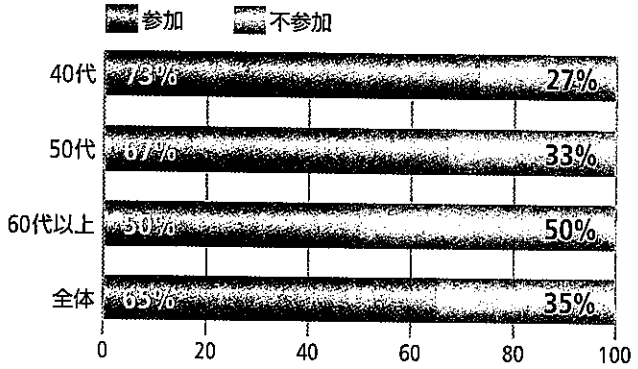
しかし、祖父には親にはないよさがあります。父親支援を目的とするＮＰＯ法人ファザーリング・ジャパンで、祖父の力を活かすための企画「イクジイプロジェクト」のリーダーを務める村上誠さんは、こう言います。

「長く生きてきたからこその経験や知恵もあるし、社会性や死生観を伝えることもできる。おじいちゃんがママ化する必要はなく、これまで日本を支えてきた人たちだからこそ伝えられるもの、親にはないものを伝えてほしい。それをできるのがイクジイです」

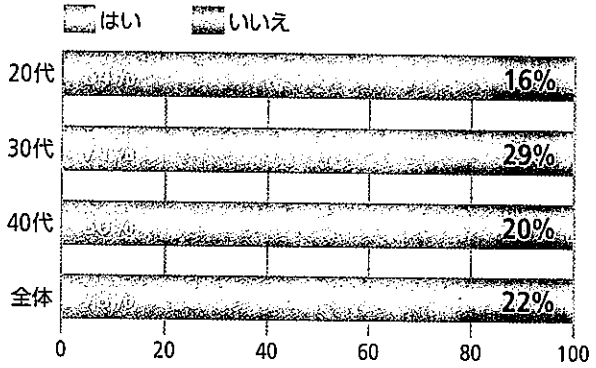
孫を育てるとは、自分の人生を未来に役立てることでもあるのです。とはいえ、どのように孫とかかわったらよいのかわからない、というのも事実。そのため、エガリテ大手前では、祖父に育児の基

取材・文●佐々木とく子

図表4 ほんとうは子育てにもっと参加したい！
男性の育児意識——わが子の育児に参加した？

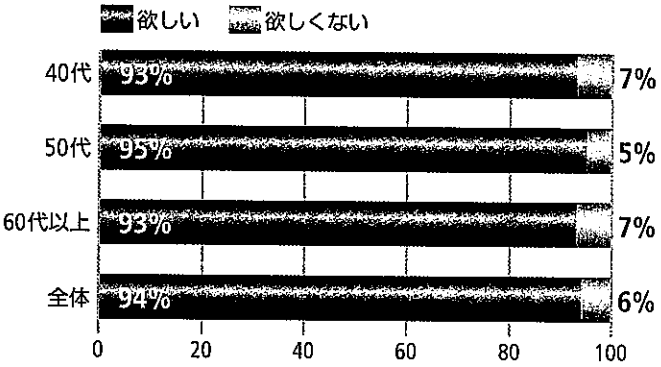


図表1 子育て女性たちの本音は親の手助け歓迎！
親の孫育てを求める割合は？

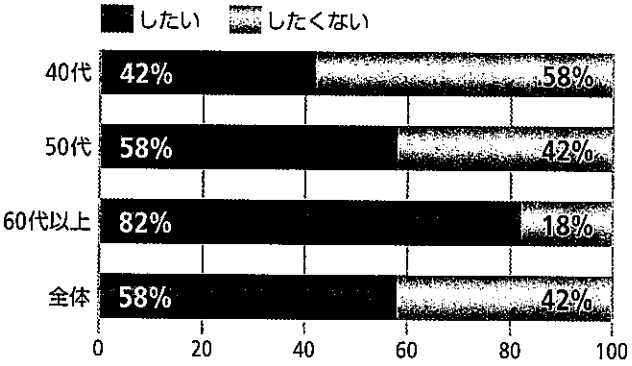


図表5 「孫とかかわりを持ちたい」がほんとうの気持ち

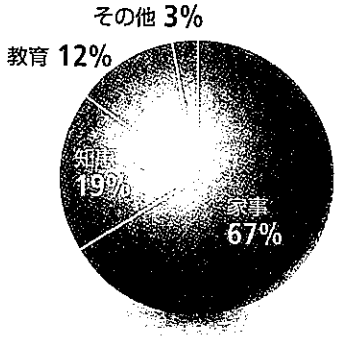
1：孫は欲しいか？ 欲しくないか？



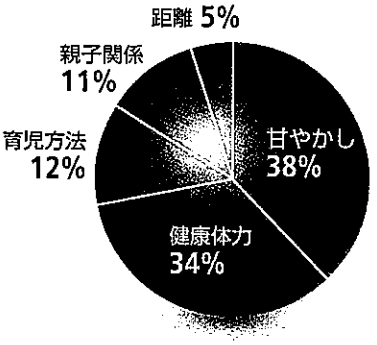
2：孫育てに参加したいか？ したくないか？



図表2 家事の手助けが欲しい……
親の孫育てに求めるモノは



図表3 やはり甘やかしがいちばん心配
親の孫育ての心配点



資料提供 NPO法人 エガリテ大手前 2006年アンケート調査より

礎を教える「ソフリエ講座」を開き、受講者を「ソフリエ」と認定する取り組みを行なっていますし、イクジイプロジェクトでは、昔遊びや料理などの講座を順次開く予定です。

このような講座を入り口にして、孫育てに参加する。そして、ゆくゆくは地域の子どもたちの育成にも参加する。そのような生き方も、かっこいいのではないでしょうか？

そこで次に、イクジイあるいはソフリエとして、すでに活動中のお二人をご紹介しましょう。

孫と接するときの心得

1. あくまでも親が中心。
   祖父の役割は、親をサポートすることだと心得る
2. 親の悪口を言わない。
   どんな親でも、子にとっては宝だと心得る
3. 母親とのコミュニケーションをよくする。
   孫をいちばんよく知っているのは母親だと心得る
4. 生き甲斐を持つ。輝いて生きている姿を
   孫に見せることが肝心だと心得る

社会に貢献しながら、イクジイを楽しみたい

石田正邦さんは、五歳の男の子と三歳の女の子の祖父。孫育てにかかわりながら、地域の子どもたちを支援するさまざまな市民活動でも中心的な役割を果たす、スーパーイクジイです。

石田正邦さん

いしだ・まさくに●1947年、千葉県生まれ。公立小学校の教員を60歳で定年退職。NPO法人市民ネット川口理事長、NPO法人子育てニッポン理事、さいたま市放課後チャレンジスクール「針ヶ谷ふれあい子ども教室」副代表などを務める。

孫がいてもいなくてもイクジイになれる

「イクジイとは、孫がいてもいなくても、乳幼児や児童が健全な成人へと育つように、親子を家庭や地域で積極的にサポートする五十歳以上の男性、というのが私なりの定義です」

一つのモデルケースとして、イクジイプロジェクトの村上さんたちから〝スーパーイクジイ〟と呼ばれる石田さんは、こう言います。

五十五歳頃から土日を使って活動を始め、定年後は再び大学に入って理論を学ぶとともに、NPO法人を立ち上げたのだそうです。

「最初に立ち上げたのが市民ネット川口で、川口市の小学生を対象に、キャンプや農業体験などを行なっています。

たとえばキャンプでは、子どもたちはほかの小学校の子どもと初めて会うわけですから、行きのバスの中は、シーンとしています。それが二泊三日のうちに触れ合いができて、コミュニケーション力もついて、帰りのバスの中では、仲睦まじくおしゃべりしていますからね」

子どもたちの成長を見守る目は、まさにイクジイです。

石田さんはこのほかにも、小学校で放課後や土曜日にさまざまな教室を開く「針ヶ谷ふれあい子ども教室」で、副代表として企画を立てるとともに、水曜日と木曜日の学習サポートも担当。月曜日には児童養護施設で、発達障害の子どもたちへの教育ボランティアもしています。

小学生の農業体験を指導する

読み聞かせもイクジイの仕事

自分の趣味を活かして孫といっしょに楽しむ

では、自分のお孫さんとの触れ合いは、どのようにしているのでしょうか？

「私は旅行に行ったり、おいしいものを食べたりするのが好きなので、子どもたち家族を誘っていっしょに楽しんで、孫とも触れ合えるようにしています」

月に一回は会食をするほかに、絵本を読み聞かせたり、公園に連れて行ったりもするそうです。

「会えないときは、絵手紙を書いて出します。近くに住んでいるのですが、ちゃんと住所と孫の名前を書いて、切手を貼って。今はまだわからなくても、十歳ぐらいになれば『こんなのがあったんだ』と、記憶に残ると思いますから」

これからイクジイになる人には、社会に興味を持ち、多くの人と知り合って、視野を広げてほしいと言います。

「その意味で、市民活動は異業種の人の集まりですから、とてもよいですね。あとは、趣味を持って心豊かに生きることでしょうか。私もできるだけ社会に貢献しながら、イクジイを楽しみたいと思っています」

初孫の誕生をきっかけに、ソフリエ資格を取得

宮崎満好さんは、一歳の男の子の祖父。ソフリエ資格を取得して、同居する息子夫婦の子育てを手伝いながら、被災地支援などのボランティア活動にも積極的に参加する毎日です。

宮崎満好さん

みやざき・みつよし●1953年、熊本県生まれ。航空自衛隊を経て専門学校職員に。2010年11月にソフリエ講座を受講、ソフリエに認定される。社会貢献を志して今年3月、58歳で早期退職。熊本と東京を結ぶ活動ができないか模索中。

お孫さんの面倒を見る宮崎さん

少しずつ冒険させるのもいいかもしれない

育児の学習には新鮮な驚きがあった

「私は息子が二人いますが、正直なところ子育ては女房任せで、たまにお風呂に入れたり、おむつを替えたりした程度でした」

こう言う宮崎さんがソフリエ講座を受講したのは、昨年の十一月。楽しみにしていた初孫が誕生して、四カ月ほどたった頃でした。

「勉強して、息子たちの子育てを少しでも手伝ってやれればいいな、と思ったのです」

講座は朝十時から夕方四時頃まで丸一日。抱き方やおむつの当て方から始まって、昼は離乳食の調理実習。さらに今と昔の子育ての常識の違いや、病気への対応、遊びなども学びました。

「すごく扱い方の勉強になりましたね。それから、赤ちゃんがアーアーとかウーウーと言ったら、それはなにかをしゃべっているのだから、同じようにアーアーと返してあげなさいとか。なるほどなあ、と思いました」

「孫にかかわるのは、すごく楽しいです。ただ、いくら楽しくても、祖父母はあくまでも補助。子どもの教育は親がするものですから、おじいちゃんがそれに口出ししたりしないように、気をつけています」

楽しみながら準備をして社会貢献の道筋をつけたい

今、ソフリエとしての宮崎さんの役割は、主にお孫さんの遊び相手です。

イクジイプロジェクトの村上さんが言っていたように、祖父の役割は母親と同じではありません。

「エガリテ大手前の代表もそう言っていますし、私もそう思うのですが、いずれは孫だけじゃなく、地域の子どもたちとのふれ合いの場面を、もっと増やしていきたいと思っています」

そしてもう一つ、宮崎さんには大きな夢があります。

「以前から社会貢献をしたいという思いがあって、今年の三月に五十八歳で早期退職しました。これからの人生は、人とのつながりのなかで、なにか意味のあることをしたい。具体的には、私は熊本出身なので、東京の子どもたちを熊本に連れて行って農業体験をさせるエコツーリズムなど、東京と熊本を結ぶ活動ができないだろうかと考えています。楽しみながら準備をして、孫が参加できる年齢になる頃には実現させたいですね」

NPO法人エガリテ大手前編の本

『祖父、ソフリエになる』

難しい育児の話ではなく、おむつの交換、抱っこのしかた、沐浴など孫とのふれ合いが楽しめるかかわりを解説。NPO法人エガリテ大手前認定「ソフリエ」資格にも対応。

メディカ出版 刊
定価：1,260円(税込)

プレゼント 『祖父、ソフリエになる』を3名様にプレゼントします。
応募要領は120ページをご覧の上、ハガキにて「ソフリエ本」プレゼント係まで(10月18日消印有効)